ティーチング・ポートフォリオ

**大学名：大手前大学　所属：建築＆芸術学部　名前：瀬口　昌生　作成日：2024 年 1 月 12 日**

## １．教育の責任

“人間力”と“表現力”を身に付けるためのサポートをすることが僕の仕事だと思っています。

## ２．教育の理念

「天職」と「適職」という考え方があります。

天職は英語で“Calling”というそうで、天から「あなたはこれをするために生まれてきたのよ」と授けられたもの。適職は、わかりやすく言えば日々生活するために必要なお金を稼ぐ手段を指します。

僕は自分のことを、『天職＝パフォーマー／適職＝先生』だと思い込んでいます。

パフォーマンスは、自身が何らかの表現をして、それを観た人たちに喜んでもらったり、何かを考えるきっかけを与えることができてこそ成立するもの。それを僕は演劇活動を通して実践してきました。

たまにこういう話をすると、他の人から「舞台に立たなくて寂しかったりすることはないですか？」と訊かれますが、全くそんなことはありません。なぜなら、大学で行う授業そのものが僕にとってのステージになっているからです。

教えるなんておこがましい！　一緒に考えていきましょうというのが僕のスタイルです。

## ３．教育の方法

《教員としての目標》

人間力と表現力を養生するために最適な手段は、演劇だと考えます。演劇は、人生を教えてくれます。

《学生に求めること》

表現活動を経て得た気づきや発見を種として、いろんなことに応用してもらいたいです。

そのきっかけを与えることがこちらの仕事で、後はあなたたちの人生ですから。

種に水をやり、芽を出し、育てていくのはそれこそあなたたち自身です。

《教育実践》

どの授業においても、とにかく人と触れる機会を多く設けています。

人間は、書いて字の通り、人と人の間で起こる様々な出来事に一喜一憂する生き物です。ハッピーな事ばかりなら嬉しいですが、残念ながらどればかりではありません。辛いことも多くあります。

モラトリアムの最終地点である大学生活で、どう自分を成長させるか。それに対するアドバイスができるよう、こちらも尽力します。

また、演劇づくりにおいては、こちらが手取り足取りイチから指導するスタイルをなるべく取らないようにしています。

なぜなら、教員が全部指導してしまったら、その作品は教員を満足させることがゴールになってしまうからです。

飽くまでも学生自らの手で成果を勝ち取ること。それが最も重要です。

## ４．教育の成果

どのような成果があるかを示すなら、卒業したゼミ生たちが OB/OG として大学に遊びに来てくれる度合いが高いことを挙げておきます。

大学生活が本人にとってつまらないものであったら、顔を出すことも敬遠するでしょうが、結構な確率で訪問してくれています。

## ５．改善への努力と今後の目標

毎回の授業後に、コメントシートを書いてもらっています。

それをつぶさに読み、改善点の要求があればそこを修正し、次からの授業に活かせるようにしていますが、人数が多くなればなるほど、全

**大学名：大手前大学　所属：建築＆芸術学部　名前：瀬口　昌生　作成日：2024 年 1 月 12 日**

員を満足させるのが難しくもあります。

例えば、グループディスカッションが好きだという人もいれば、苦痛に感じる人もいるわけです。

そういった場合は、個別に対応して、どうすればそれを和らげることができるかを一緒に考えていける機会をなるべく多く持つことが目標です。

**【添付資料】**